平成２２年４月９日
国土交通省大臣官房運輸安全監理官室

冊子「事故、ヒヤリ・ハット情報の収集・活用の進め方～事故の再発防止・予防に向けて～（海運モード編）」について

１．本冊子の位置づけ

○ 中規模以上の、海運モード（旅客船、貨物船等）の事業者が対象です。
○ 運輸事業者が、「リスク管理」を実施するときの参考資料として、位置づけています。
○ 本冊子の構成は、「本編」と「資料編」の2部に分かれています。
「本編」は、リスク管理の必要性、基本的な手順を、簡単に説明しています。
「資料編」は、「リスク管理」の手順の具体的な進め方を、くわしく解説しています。

２．本冊子の概要

リスク管理とは

現場で起きた事故、ヒヤリ・ハットなどの情報を集め、事故防止のための対策につなげる取組み

※ 事故防止に直接向けられた取組み。
輸送の安全を守るための取組みの中でも重要なもの。

リスク管理の必要性

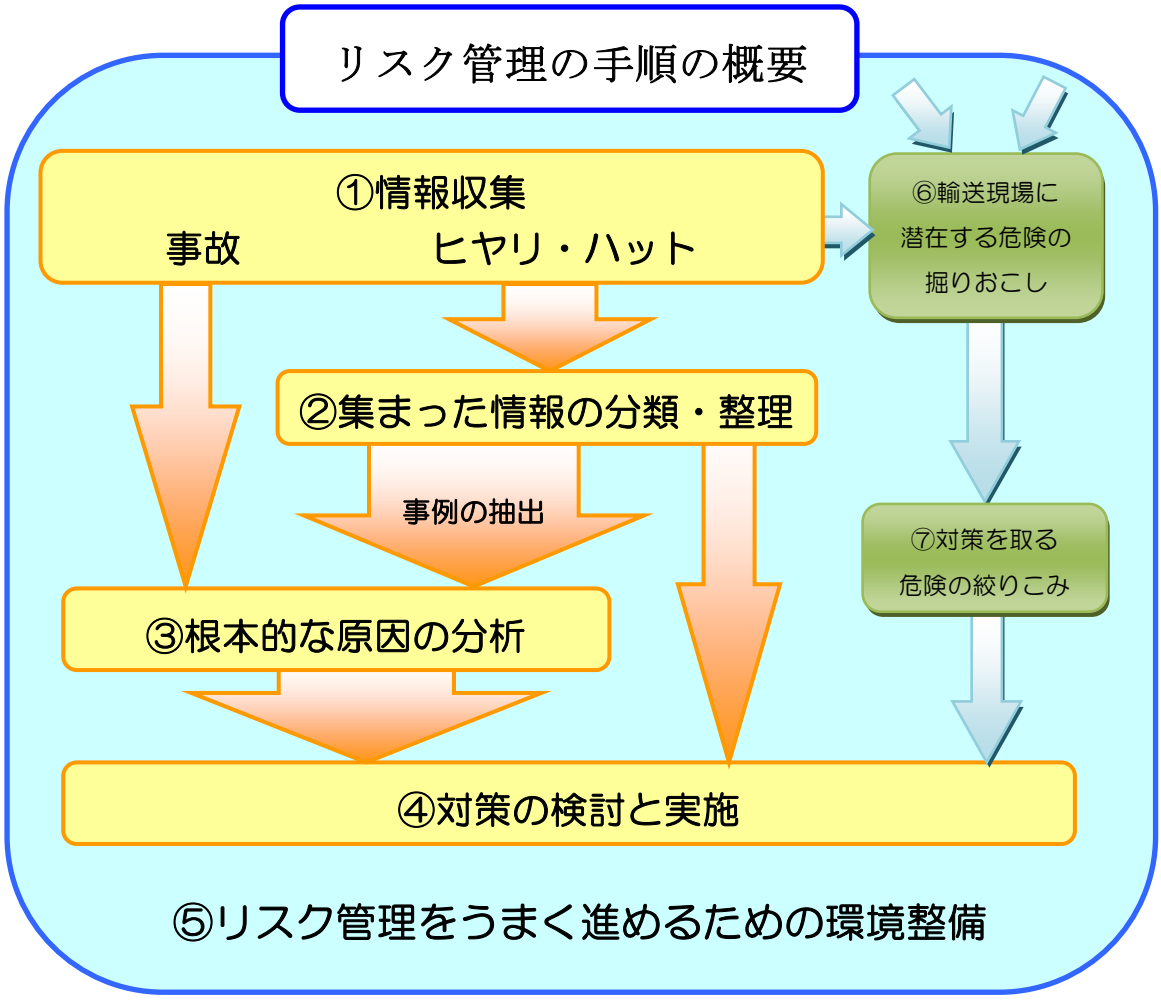
○ リスク管理をしない、取組みが不十分な場合

- 同じような事故の再発
- 大事故（例、沈没など）の発生
- 事故の増加

} の危険性

○ うまくリスク管理に取り組んだ場合

- 事故の減少
- 事故による支出、事故処理に要する労力の減少



まず図の①～⑤の取組みからトライするとよいでしょう。

①情報収集

(1)情報収集は、**リスク管理の出発点**。

(2)ヒヤリ・ハットの段階で対策を立て**事故を未然に防ぐ**ことが大切。

(3)ヒヤリ・ハット情報を集めるには工夫が必要。

※・ヒヤリ・ハットとは何か？
・ヒヤリ・ハットが集まらない、集まりすぎて対応できない等の悩みの解決法を、**資料編**に解説しています。

②情報の分類・整理

(1) **自社で多いヒヤリ・ハットの類型、原因をつかむ**のが目的

(2)**重要な項目**を重点的に分類・整理する。

（発生場所、ヒヤリ・ハットの相手、ヒヤリ・ハット時の航行状態　等）

(3)多発するヒヤリ・ハットの類型がわかれば、そこに絞って対策を検討

※具体的な分類方法を、**資料編**に解説しています。

③根本的な原因の分析

(1) 事故、ヒヤリ・ハットの根本的な原因を解決する対策がとられていないと、同じような事故を繰り返すおそれがあります。

(2)**①本船側、②事故の相手方、③ハード面、④周囲の環境、⑤安全管理・運航管理**の5つの視点から考える。

(3)根本的な原因の分析は、以下の事例に限定するとよい。

- 事故
- 大事故につながる危険性の高いヒヤリ・ハット
- 自社で多発する、対策をたてたいヒヤリ・ハット

※根本的な原因の分析のやり方には、「なぜなぜ分析」「特性要因図」等があります。具体的な分析のやり方を、**資料編**に解説しています。

④対策の検討と実施

(1)対策を検討する優先順位をつけることが大切。

(2)対策の検討も、5つの視点から考えることが必要。

(3)「**うっかりミス**」と「**ルール違反**」→エラーの内容に即した対策が必要。

※具体的な対策の考え方を、**資料編**に解説しています。

⑤リスク管理を進めるための環境整備

(1)**経営トップ**がリスク管理の必要性を理解し、積極的に取組む。

(2)自社の現状を理解して、**リスク管理の体制や予算**を決める。

(3)現場の人達と目的意識を共有し、**全員参加**で取組む。

※具体的な環境整備の方法を、**資料編**に解説しています。

①～⑤の取組みが進んでいる事業者では、
次の⑥⑦の取組みも行うことが望ましい。

⑥潜在する危険の掘りおこし

(1)日常の業務に潜む、事故につながるおそれのある事象（潜在する危険）を掘り起こす。

(2)掘りおこし方

潜在する危険の典型的な事例をまとめる

↓

典型的な事例を自分の業務に当てはめ、同じような事故が起きる可能性のある場面を検討する。

⑦対策を取る危険の絞り込み

(1)その出来事が起きる可能性
(2)事故につながる可能性
(3)影響の大きさ

に着目して絞り込み

※⑥⑦の具体的な方法を、**資料編**に解説しています。